

通告番号 1

## 一般質問発言通告要旨

通告者 6番 武藤義彦

### 1 秋田内陸線の市民意識調査について

- (1) アンケートは仙北市独自のものか、また、対象者を1,500人とした理由は。
- (2) 沿線住民と乗車機会のない地域では温度差があると思うが、調査結果を踏まえた議論はどのように進めるか。
- (3) 今年の豪雨災害で当該自治体である北秋田市の負担額はどの程度か。  
また、仙北市で大規模災害が発生した場合の負担対応は。
- (4) 過去に損失補填の負担軽減策として減便等の検討はあったか。
- (5) 株主総会等で4者合意の在り方を議論されたことはあったか。

### 2 事務事業評価について

- (1) 条件付き継続・縮小・段階的廃止としているが、どの程度の期間や規模を想定しているか。
- (2) 外部評価として総合政策審議会があるが、その構成と審議内容は。
- (3) 今後107事業以外についても事業評価を実施する考えはあるか。
- (4) 事業評価、部局経営方針により予算編成を進めるとしているが、市民が幸福度全国一を実感するにはどのような施策が必要と考えているか。

### 3 森林保全について

- (1) 国では森林環境譲与税の配分見直しを検討しているようだが、現段階で情報はあるか。
- (2) 森林所有者への意向調査を実施したが、この先の活用法は。

### 4 半農半Xについて

- (1) 県内では、八峰町やにかほ市が移住定住・農業の担い手確保として実践に向けた取組を進めているが、実状を把握しているか。
- (2) 仙北市でも農地や空き家活用等も含めて検討してはどうか。

通告番号 2

## 一般質問発言通告要旨

通告者 1番 西宮三春

### 1 防災力向上を目指して

- (1) 県が検討している防災士の養成に対し、市はどのような計画を検討しているのか。
- (2) 防災士取得後の活動については、どのような活動を期待しているのか。
- (3) 自主防災組織の推進について計画はあるのか。
- (4) 避難所運営について

8月13日に西長野地区を流れる入見内川が、田中観測所で避難判断水位に達し、西長野地区へ避難指示を発令、角館庁舎と西長野交流センターに避難所を開設。さらに、15日夜に西長野地区へ避難指示が発令、西長野交流センターに避難所を開設した。15日夜の避難指示については、もっと早い時間に警戒レベル3の高齢者等避難を出し、避難誘導はできなかったのか。

- (5) コロナ禍でありながら、避難者の受け入れに対し、検温などの感染対策がされていなかったが、この点について今後どのように改善していくのか。
- (6) 地域防災会議では、コロナ禍の災害を想定した避難所運営など、市民が安全に避難できる対策を検討されたのか。
- (7) 第4次男女共同参画計画の中で、防災会議の委員に占める女性の割合が令和8年度までの目標値が5%となっているが、現在女性委員はいるのか。また、今後女性委員の割合を増やす計画はあるのか。
- (8) 西長野交流センターのように和式トイレしかない施設が避難所の場合、足が悪いなどの理由で避難したくてもできない高齢者がいるが対策はあるのか。
- (9) 防災行政無線維持管理費が段階的廃止となっているが、災害時の情報発信は今後どのようになるのか。特に、高齢者への情報発信はどうするのか。

### 2 子育てファミリー支援事業と、在宅子育てサポート事業について

- (1) どちらの事業も、交付額より精算額が低く、交付された15,000円のサポート券を使いきれていないことがわかるが、市の見解は。
- (2) 利用できる店舗、施設などの詳細を市のホームページに掲載し、利用促進を図ることも必要と考えるがどうか。
- (3) おむつ・おしりふき・粉ミルクなど毎日使うものに利用できるようにしてほしいというのが1番多い要望だが、検討はされているのか。
- (4) 予防接種を利用する場合、事前に申告をしなくてもサポート券を利用できるようにはならないか。
- (5) らくがき文房具セットのほかに、絵本とお絵かきノートの組み合わせで利用できるなどはどうか。

通告番号 3

## 一般質問発言通告要旨

通告者 3番 中村和彦

### 1 不登校児、別室登校児について

- (1) 市内小、中学校の現状について。
- (2) その生徒たちに、どのような指導、学習を行っているのか。
- (3) 保護者とのコミュニケーションは、どのようにしているのか。
- (4) スペースイオ等の活用についてはどうか。

### 2 仙北市職員等について

- (1) 管理職を除けば、職員の大多数は組合員である。その組合員に対して当局は、団体交渉等において、様々な要求や要望を受け対処しているが、最近の内容等について伺う。
- (2) 再任用職員の手当で、寒冷地手当が無いのはどういう理由からか、また県内を見ても低額な管理職手当の見直しが出来ないか伺う。
- (3) 日直業務等について委託等出来ないか伺う。

### 3 市内の空き家、倒壊家屋等について

- (1) 市内を見渡せば、空き家、倒壊寸前の家屋、倒壊家屋がいたるところに見られる。それらの家屋について、どのような対策を取っているのか伺う。
- (2) 県の補助金等活用して、少しでも持主の負担軽減が図れるよう指導、助言等を行えないものか伺う。

### 4 令和5年度当初予算について

- (1) 予算の基となる歳入の増収をどのように行うのか。
- (2) 起爆剤となるような政策で、明るく、楽しく、元気な仙北市に出来ないか市長就任から2回目の予算編成に対する見解を伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 4番 澤田 雅亮

### 1 インフルエンザ予防接種助成拡張について

- (1) 仙北市では生後6ヶ月～小学生2回、中学生～高校生1回、妊娠中の方1回、そして65歳以上の方、60歳以上65歳未満の心臓、肝臓、呼吸器の機能に疾患（障害1級）の方々を対象とした助成事業を行っている。様々な資材、食材、原材料等の物価高を考えた時に少しでも市民の生活と安全の助けになるように19歳～64歳までの1／3もしくは1／4といった多少の助成を追加することはできないか。

### 2 武家屋敷火除けの有効活用について

- (1) これまで様々な検証や研究等が進められていると思うが今後5年、10年後の具体的な有効利用もしくは目標はあるか。

- (2) 現状最も有効的な活用方法は広さを活かした物販等の販売スペースだと感じる。

全国的にも沢山の自治体が市有地の様々な場所を活かして朝市、農作物の販売をしているので町の中心地で行うことで地産地消または観光に来た人にダイレクトに販売し、この給料は上がらないが物価は上がっている現状の小さな手助けになれば良いと感じるがどうか。あの何もない広い場所の有効活用を一切しないのはあまりにも損失的と考えるがどうか。市民会館はまさに有効的な活用方法を見出そうと職員が努力して今様々な施策を打ち出し、そこに出店をするという環境が生まれ始めている中、同じ市の遊休地であれば同じではないか。また積極的に利用するため要項及びガイドライン等はあるか。

なお、花見の時期に商工会主体で各所に出店依頼をしていたが実際参加したのは2～3団体ほどで逆に盛り上がりに欠けると感じた。しっかりと有効的に活用するのであればジャンルを問わず、誰でも出店しやすい、参加しやすい現代版の【楽市・楽座】のようなイメージで活用することが平等的でビジネスの可能性を広げる一つのきっかけになると考える。

以上の点について、積極的な参加の呼びかけが必要である。この点について市はどういう呼びかけをしてきたのか。そして、今後の呼びかけ手法などはどのような取組みを行うのか。

### 3 市民・企業が求めるわかりやすい情報の伝達と仙北市広報について

- (1) 現在ある仙北市のホームページ作成にあたり掛かった金額はいくらで、いつから運用開始となったか。

- (2) 市民・企業が市の施設を営利目的で利用する際に金額等を直ぐに確認できる一覧表

は市のホームページ等から確認できるか。施設・設備によって金額の掲載のばらつきはないのか。また、掲載がある場合ホームページであれば月間のビュー数の確認ができるがデータはとっているか。

- (3) 仙北市のホームページを拝見しても市民、企業が知りたい情報が手に入りにくいと感じる。12月からセグメント配信が始まることで前よりも情報が手に入りやすい体制の一歩を踏み始めたと思うが、市のホームページがわかりにくく現状が目指している方向性へのズレを感じる。例に出せば姉妹都市の大村市のホームページは見やすく検索し易いと感じた。行政のホームページはその性質上わかりにくくのは仕方ないと感じる上に、情報を探す方も探す努力をしなければいけないのは当然であるがリメイク、リニューアルによって問い合わせの件数が減れば職員の業務改善に繋がると考えるがどうか。そしてそのためのサイト設計の思想等はどのような考え方であるか。
- (4) 仙北市広報についての現行のままの必要性について伺う。仙北市広報は月に2回の発行で年間県の補助金を入れて市の持ち出しが1,100万円弱掛かっている。財政が厳しく、削れる所をどんどん削ることも考えなければならない現状を考えたとき、楽しみにされている方もいらっしゃるでしょうが月1の白黒で簡略化したものにしていくべきと考える。言うならば【金が無いのに贅沢】をしている状態であり、しわ寄せはどこに来るかは言う必要もございませんが犠牲になるのは未来です。白黒月1にした場合どれほど安くできるか、またそれによっては業者の再選定を行い価格交渉をしていくことがとても重要だと思うがどうか。現在の封入封緘作業込みでの一広報誌当たりのコストは。そしてスリム化した場合との料金比較は。

#### 4 財政が厳しく投資が難しいのであれば市のまちづくりの方向性と自由度向上について

- (1) 仙北市第三次観光振興計画について内容を進めているが、そもそも仙北市をどのようなまちづくりにしたいか。観光地、農業の二本柱として進めていきたいと思うがそのためには抜本的かつ革新的な改革が必要になると考える。

農業に関しては極端な話、仙北市の中でも過疎地域から人を中心部へ移動してもらい公共サービスの集約化に繋げることで農業地帯の整備。このような話は全国的にも話し合いの話題としてよく挙げられるが具体的に進むところはあまり見受けられない。仙北市総合計画実地計画2021年度～2023年度の4～6ページが該当する項目と考えるが計画が実地されどれほど向上している状況か。

- (2) 仙北市の観光地開発をどのような方向性で向かうのか。角館一武家屋敷があるが子供向けの遊び場が少なくファミリー向けの観光地ではない。以前の一般質問の時にも述べたが財政の都合上難しいが落合運動公園周辺の開発を行うことで観光客以外にも県内の遊び場の一つとしての形作りもできると予想される。

日本一の湖がある田沢湖は湖畔周りの木々の間から雑草が無造作に伸びていて景観が悪くなっている。仙北市総合計画の実施計画8ページには質の高い観光地形成という項目があるが湖畔周辺の無造作に伸びた木々の状態から質が高いとは思えない。本来、田沢湖のポテンシャルを考えると北海道ニセコや、琵琶湖、軽井沢といった観光地にできるはずなのに県直営であること以外にも【自然を守ろう】という言葉だけで現状守るのではなく放置されている状態。湖畔周辺でビジネスを始めたりと昔よりは良い状況になっていると思うが市として田沢湖をどうしたいのか。

(3) 今の仙北市に必要なのは特別な設備や施設ではなく【誰でもチャレンジしたいことに取り組みやすい環境づくり】だと感じる。戦略特区はあるが言うまでもなく活用されにくい現状で宝の持ち腐れ。その反面、先日商工会の仙北創業経営塾では過去最高の参加者だったということでチャレンジしたい人が増えている現状であれば市として施設・遊休地等の営利目的による支払金額の撤廃や申請の簡略化を行うことで仙北市がチャレンジしたい人を全力でバックアップしているというプロモーションになると考える。

大した金額でもないスペースの利用料金を取って少し財政の足しになりました！ではなく、むしろ企業やフリーランスの収入を上げ市内で経済に回す、もしくは仙北市は起業し易い環境が整っている！と位置づけできれば対外的な強みにもなると思うがどうか。そのためには具体的に公共施設の料金等の条例改正が必要になる。以上の考えを踏まえ副市長、企画課、総務課として、現在の起業振興策の反省と今後の方針性についてどのように感じ具体的なサポートへ繋げるか伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 10番 田口寿宣

### 1 持続可能な仙北市を創るために

市政報告において、仙北市人口動態について報告された。この状況が続けば、仙北市が維持できなくなると強い危機感を抱いた。将来を担う子ども達にしっかりとバトンを引き渡すのが、私達責任世代の大きな責務の一つであると考える。急に人口を増やす事は無理な話ではあるが、減少の速度を緩めつつ、少しずつ増やしていく事は可能であると考える。時間はかなり掛かるが、取り組んで行かなければならない。持続可能な仙北市を創るために、次の4点について議論をしていきたい。

- (1) 本市では産業振興基本条例が制定され、その下で産業振興に係る様々な施策が展開されているものと思う。それぞれの業種が必死になって頑張っているが、なかなか厳しい現実を突き付けられている。このような状況下でも、地域産業が元気になり、若者がこの地に根付いてしっかりと働いていける環境を、民間団体を含む関係機関と連携しながら創っていかなければならない。そのためにも、現実を踏まえ、かつ未来を見据え、産業振興基本条例第10条の見直し手続きを行い、条例改正に向け考える時が来ていると思うがいかがか。
- (2) 進学等で地元を離れた若い世代が、卒業後、帰って来たい動きが出て来ている。地元で頑張っている友人と共に過ごしたい気持ちと一緒に、地元の良さを感じていての事と思う。しかし、働く場所について、どこにどのように相談をしたら良いのかという声を聞く。地元企業あるいは学んだことを活かせる企業とマッチングさせ、背中を押す窓口を設置し、しっかりと若者をサポートする体制を構築するべきと考えるがいかがか。
- (3) 出生数がかなり低い状況にある。社会を取り巻く状況も影響していると思うが、これまで本市で取り組んできた子育て支援策がどうだったのかという点が、この数字に現れているものと感じる。現在、市内各こども園の保護者の皆様と意見交換会を行っているようであるが、いただいた様々なご意見をしっかりと施策に反映し、幸せを感じていただけるようにするには、これまでの支援策を分析し、駄目だった点の改善が求められるものと考えるがいかがか。
- (4) 子育て支援策も様々あるが、子どもへの投資という視点も持ち合わせて行う時期に来ているものと考える。この視点を持ち少子化対策に取り組む事が、将来的には最高の福祉を創り出すものと考えるがいかがか。

## 2 住民の足の確保について

現在、本市ではよぶのる角館をはじめ、新たな地域公共交通体系が確立されようとしている。以前、民生委員の方と懇談をする機会があったが、田沢湖病院～角館病院間を結ぶ交通アクセスがあると大変助かるという住民からの相談を受けた話を伺った。ご近所さんや知人に送迎をお願いしているが、このご時世で気を遣ってしまいお願いしづらくなっているようだ。安心して通院できるよう検討の余地はあると考えるが、見解を伺う。

通告番号 6

## 一般質問発言通告要旨

通告者 15番 高久昭二

日本一幸福度の仙北市を目指す田口市政の諸問題について

1 角館武家屋敷整備促進と今後の課題

(1) 角館武家屋敷の今後の課題について。

(2) 伝建群地外「旧芦名家兵具庫」の保存、修景と佐竹北家旧庭園について。

2 学校給食無料化に向けた段階的取り組みと保護者負担軽減について

3 仙北市税金収納業務に係る諸問題並びに市民生活を守るための改善策等について

4 仙北市田沢湖黒沢工業団地への企業誘致について

通告番号 7

## 一般質問発言通告要旨

通告者 5番 門脇晃幸

仙北市の財政状況と令和5年度予算編成について

### 1 財政改革について

- (1) 令和3年度本市の経常収支比率及び財政力指数の最終数値を伺う。又、秋田県類似団体平均値・秋田県市町村平均値も併せて伺う。
- (2) 令和3年度の決算・監査意見等を踏まえ市の財政状況について市長の見解を伺う。
- (3) 2040年問題について市長の所見を伺う。
- (4) 令和4年、国は地方自治体の財政上の課題として、1. デジタルの活用による自治体行政のスマート化、2. 歳出の見直し（コロナ禍において国の歳出チェック力の低下に伴う地方財政運営が放漫化等）、3. 地方債務の早期返済、を上げている。  
仙北市の現状と今後の対応を伺う。
- (5) 決算黒字による財政調整基金への積み立てが今後（不用額の多い自治体ほど）難しくなる。市の現状と対策を伺う。

### 2 予算編成について

- (1) 令和5年度予算編成は、3月定例会において詳細が判明しますが、現時点で市長が掲げた財政改革が、どのように反映されようとしているのか伺う。
- (2) 仙北市総合計画に沿って自治体運営（予算編成）がなされているが、予期せぬ事態の発生があった場合、臨機応変の対応が必要である。又、事案解決には視点を（生活者の目線で）、面の捉え方が必要である。組織の垣根を越えて横断的マネージメントに対応する所管課はどこか。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 7番 高橋輝彦

### 1 将来に持続可能な仙北市の行財政改革について

田口市長は就任して1年間はじっくりと現状把握に徹することだったが、1年を経過していよいよ将来に持続可能な仙北市にするための行財政改革に動き出したと感じている。幸福度全国NO.1を目指している田口市長に以下の3つの項目について伺う。

#### (1) 事務事業評価について

- ① 1年間の現状把握により、事務事業二次評価で特に重要視した点、及び政策支援アドバイザーのアドバイス等は二次評価に反映されているのか伺う。
- ② 外部評価の欄が抹線の事業は一次評価と同様ということなのか伺う。
- ③ 評価項目の「条件付き継続」と「段階的廃止」についてイメージできないので具体例を伺う。(例えば、「条件付き継続」とした各種団体等への補助金と「段階的廃止」とした秋田内陸線利活用促進事業費負担金は今後どうしていくのか。)
- ④ 評価結果のまとめとして、現行の事務事業のうち3つの事業は段階的に廃止し、7つの事業は令和5年度から廃止するのかの確認と、他の97事業は縮小する事業もあるが今後も継続し、幸福度向上を目指した子育て及び若者関連施策などの新規事業があれば、令和5年度当初予算に盛り込むことで公表されるのかを伺う。

#### (2) 上下水道料金の改定について

- ① 上下水道料金改定の諮問機関の答申では、上下水道事業共に約30%以下の増額が望ましいとしているが、上限である30%を増額した場合、それぞれの増収額を伺う。
- ② 安全で持続可能な上下水道事業を運営していくためには、値上げはやむを得ない状況にあると思うが、来年4月には、今年度の値上げからさらに32%の値上げを申請した電気料、そしてガス、灯油、ガソリン、食料品などが軒並み値上げされている昨今の社会情勢を考慮したうえでの改定時期、値上げ幅、あるいは段階的な値上げにするなどを十分に検討するべきだと考えるが、市長の所見を伺う。
- ③ 市民になぜ値上げしなければならないかを理解していただくことが重要課題になるが、市民への説明及び市民の意見収集などはどんな形で、いつ頃を予定しているのか伺う。

#### (3) 市民に分かりやすい仙北市の財政状況の説明について

- ①毎年11月の広報誌に決算状況が掲載される度に、多くの市民から「毎年、黒字決算との報告だが、“財政が厳しい”“お金がない”ってどういうこと？」と聞かれるが、市民に対して簡単で分かりやすい回答を伺う。
- ②仙北市は、資産の増減や見えにくいコストを把握できるとされ、今後はスタンダードになっていくと予想されている新地方公会計制度は取り入れないので伺う。

## 2 将来に持続可能な学校適正配置について

学校適正配置については、予想を超えた出生数の減少と校舎の老朽化による改修費用の増大という課題について、仙北市民みんなで現状を認識し、将来にわたって持続可能な学校の教育環境を検討する目的で、今年度から住民説明と意見交換がスタートした。

「仙北市学校適正配置に関する提言書」による「統合の検討に入るべき状況」になっている白岩小学校では、トップを切って6月27日に教育委員会による説明会と意見交換会が開催され、多くの質疑応答が行われたところである。

10月26日には白岩小学校PTAと白岩小百合保育園父母の会の主催による「今後の白岩小学校を考える意見交換会」が開催され、こちらも活発な意見交換が行われた。さらには、11月16日に開催された白岩小百合保育園父母の会総会では、白岩小学校の統合に係る園児保護者としての意見の集約が図られたと聞いている。

教育委員会では、上記の意見交換会等の情報について把握していると思われるが、今後の学校適正配置に向けた進め方について伺う。

- (1) 今年度8月に設置するとした「学校適正配置検討委員会」は設置されているのか、また、どのような内容を検討していく委員会なのか伺う。
- (2) 小学校区毎の市民意見交換会は、自分の区域だけではなく全市的な観点から、学校の適正な規模や配置についての検討を求められているが、「統合の検討に入るべき状況」になっている白岩小学校区の保護者は、白岩小学校は今後どうなるのかで頭がいっぱいである。多くの保護者は、今後の児童数の推移や校舎の老朽化による改修経費などの説明を受けて、自分の子どもの教育環境を考えたとき、角館小学校との統合は避けられない状況であることは共通認識している。教育委員会では、今後どうするかは保護者と地域住民で考えてくれとの意向を示しているが、白岩小学校区の出生数は、平成30年から5年連続で5人以下であり、なおかつ、角館小学校への就学指定校変更が増加する傾向にある状況では、教育委員会が主導して、統合に向けたスケジュールを明示した草案を策定し、保護者及び地域住民から意見を聞く形で進めてもらいたいとの要望が多いが、所見を伺う。
- (3) 保護者及び地域が統合を希望してから、準備期間に3年必要だと教育委員会で説明したことだが、統合の準備期間に3年も要する根拠を伺う。

## 3 将来に持続可能な落合運動公園野球場の改修整備事業について

仙北市議会では9月定例会において、落合運動公園野球場の改修整備について、県及び国に対して予算措置への支援を求めていくことを決議し、これまで関係箇所への要望活動を行っているところである。仙北市としても、県及び国に対する財源確保の要望書を準備しているとのことであったが、現在の進捗状況について伺う。